

地域をつなぎ 地域とつながる

NEXCO東日本レポート 2021

CSR BOOK

高速道路を通じて 地域社会の発展と暮らしの 向上を支えています

NEXCO東日本グループは、
東日本地域における高速道路の
管理事業、建設事業、サービスエリア事業および
高速道路関連ビジネスを行っています。
今後も、地域・国・世代を超えた持続可能な社会の実現に向けて、
「つなぐ」価値を創造し、
あらゆるステークホルダーの皆さまに貢献する企業として
成長してまいります。

グループ経営理念

NEXCO東日本グループは、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、
地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献します。

高速道路の効果

地域社会の発展

暮らしの向上

日本経済全体の活性化

高速道路事業



管理事業



建設事業

関連事業



サービスエリア事業



高速道路関連ビジネス



営業延長
3,943km



インターチェンジ
446カ所



スマートIC
58カ所



サービスエリア・パーキングエリア
328カ所
(うち、商業施設有198、商業施設無130)



急速充電器
151カ所

(2021年7月1日現在)

【編集方針】

「NEXCO東日本レポート CSR BOOK」は、
NEXCO東日本グループの高速道路事業や、
高速道路事業を通じた社会の持続的な発展
に向けての取組みを、SDGsの切り口からス
テークホルダーの皆さまに簡潔にお伝えす
るために発行しています。
より詳細な事業内容については、「NEXCO
東日本レポート」に記載しており、当社コー
ポレートサイトからダウンロードしてい
ただけます。

NEXCO東日本グループのCSR

NEXCO東日本グループが目指すCSRの姿

CSRキーワード

「地域をつなぎ、地域とつながる」

NEXCO東日本グループは、CSR経営の指針として、2021年3月に「NEXCO東日本グループが目指すCSRの姿」を右図のとおり改定し、「地域をつなぎ、地域とつながる」をキーワードに、持続可能な社会の実現を目指したCSRの取組みを進めています。

当社グループの事業活動そのものが企業の社会的責任を果たすことにつながると考え、これからも社会の中の会社という考えのもと、持続可能な社会の発展に貢献していきます。



SDGs達成への貢献

NEXCO東日本グループは、国連が策定した「持続可能な開発目標(SDGs)」を支持し、高速道路事業を通じて社会課題の解決を推進することで、世界の持続可能な発展を目指します。

NEXCO東日本グループが事業を通じて貢献する主要なSDGs



事業活動を通じて貢献するSDGsを整理するにあたり、SDGsと中期経営計画(2021年度～2025年度)の主要重点計画とを照合して、SDGsを17の目標にぶら下がる169のターゲットにまで落とし込みマッピングとして整理しましたので、あわせてご参照ください。

NEXCO東日本グループのSDGsへの貢献と取組み
<https://www.e-nexco.co.jp/csr/group/sdgs.html>



安全・安心な高速道路空間を提供し、交通事故による死傷者数減少を目指します

■ 安全走行のための日常管理

お客さまに安全に安心して高速道路をご利用いただけるよう、日常的に点検や清掃作業を行うとともに、計画的に道路の補修を実施しています。

また、冬期の気象条件が厳しい地域を多く管理しているので、安全な交通を確保するため、除雪作業などの雪氷対策を行っています。大雪が予測される際には、広域的な応援体制の構築による除雪能力の強化を行うとともに、大雪による高速道路への影響見込みなどの情報提供にも努めています。



橋梁の打音点検



舗装補修作業

■ 交通安全・逆走防止対策

交通事故を防止するため、過去の交通事故の発生状況を分析し、急カーブ区間の注意喚起、速度抑制、車線逸脱防止などのために、さまざまな交通安全対策を実施しています。

特に、高速道路の逆走は重大な事故につながることから、高速道路本線への合流部にラバーポールを設置して無理な転回や逆走を抑制するなど、各種逆走防止対策を進めています。



ランプ合流部の逆走対策



現場対応の様子



規制訓練の様子

■ 交通巡回

定期または臨時に高速道路を巡回し、渋滞などの交通状況、落下物による道路状況、現地の気象状況などの情報を収集しています。また、異常事象が発生した時には、現場に急行し、落下物排除や事故対応を行うため、日頃の訓練も重要になります。

落下物などの処理数	約97,300件
交通管理巡回距離 (2020年実績)	約23,500,000km (地球約1周半/日)



技術力向上とイノベーションにより、 事業の高度化・効率化を図り、 快適な高速道路を実現します

■ 技術者育成

当社の技術者は、技術力とマネジメント力を身につけることを基本として、実務年数に応じたカリキュラムによる各種研修を実施することで、さまざまな技術課題に対応できる技術者育成に努めています。

総合技術センターでは、座学による工学的基礎知識の習得に加え、現場から撤去した橋梁床版・舗装、土構造等の実物、トンネル構造模型や3D・VRなどの画像映像技術による体験・体感型研修を体系的に行います。



3Dによる体験型研修

■ SMHによるイノベーションの実現

SMH(スマートメンテナンスハイウェイ)とは、高速道路の長期的な「安全・安心」の確保のために、ICTやロボティクスなど最新技術を活用し、高速道路のアセットマネジメントにおける生産性を飛躍的に向上させるプロジェクトです。

SMHツールの導入によって業務の高度化・効率化・品

質向上を目指すとともに、各業務場面における意思決定プロセスの標準化を図ることで業務の生産性向上に繋げ、技術者がより知識と経験を最大限生かす「技術的思考が必要な業務」に専念できる環境の構築を目指します。



SMHが考える「技術者×ICT」とは

- ▶ 情報基盤を再構築し、自由なデータの可視化・分析
- ▶ データ(数値的根拠)に基づく確かな意思決定
- ▶ 支援ツールによる迅速な意思決定
- ▶ 作業手順だけでなく、意思決定プロセスも標準化

- 技術者を単純作業から解放
- 技術者が技術者としての役割に専念

■ 次世代高速の目指す姿

社会情勢の変化に対応し、引き続き将来の自動車交通のさらなる発展をけん引していくべく、当社が目指す高度なモビリティサービス提供の方向性を「自動運転社会の実現を加速させる次世代高速道路の目指す姿(構想)」としてとりまとめました。

次世代高速道路の目指す姿を実現するために、31項目からなる「重点プロジェクト」を立ち上げ、NEXCO東日本中期経営計画期間(2021～2025)において順次検討・着手していきます。詳細は当社HPをご参照ください。

次世代高速道路の目指す姿

<https://www.e-nexco.co.jp/activity/safety/future/>



いまでもこれからも、 高速道路を通じて社会を支えていきます

■ 高速道路ネットワークの整備

当社では、2005年以降これまで605kmのネットワーク及び142kmの4車線化・付加車線の整備を実施しました。

今後も、外環道(中央JCT～大泉JCT)、圏央道(釜利谷JCT～戸塚IC、栄IC・JCT～藤沢IC)などのネットワーク整備および圏央道(久喜白岡JCT～大栄JCT)、道東道(占冠IC～トマムIC)などの4車線化の整備を着実に進めていきます。



横浜環状南線(建設中)

■ 高速道路リニューアルプロジェクト

高速道路がこれからも社会基盤を支える日本の大動脈としての役割を果たしていくために、道路構造物の大規模更新・修繕事業を2015年から実施しています。

また、新技術の採用や移動式防護柵(Road Zipper System)を活用した柔軟な交通運用などの渋滞対策により、事業実施に伴うお客さまへの影響を最小限にすべく努めてまいります。



橋梁の床版取替



ロードジッパーシステム

■ 海外のインフラ整備への参画

2009年のインド駐在員事務所を開設以来、インドで培ってきた経験を活かす新たな一歩として、2019年に海外現地法人「E-NEXCO INDIA PRIVATE LIMITED(ENI)」を設立しました。

インドにおける当社グループの技術導入やこれに関連する調査などを展開しており、現在は、ひび割れ・わだち掘れなどを走行しながら的確に把握できる路面性状測定車両「E-NEXCO Eye」の導入を進めています。

高度な路面管理への要求が高まっているインド国内において、最適な補修計画の立案および安全な道路空間の実現に寄与してまいります。



「E-NEXCO Eye」性能確認試験



地域と地域をつなぎ、 地域とともに成長します

■ 災害に強い道路づくり

地域と地域をつなぐ大動脈として、大規模地震発生時に被災後速やかに機能を回復するため、橋梁の耐震補強や盛土内の滞留水排除対策などを実施し、災害に強い道路づくりを進めています。

2016年4月に発生した熊本地震により、ロッキング橋脚を有する高速道路を跨ぐ跨道橋1橋が落橋したことを受け、NEXCO東日本が管理する橋梁のほか、自治体などが管理する橋梁の耐震補強も進めています。



補強前



補強後

■ 地域のショーウィンドウ化

休憩施設をお客さまに快適にご利用いただくため、お客さまとのコミュニケーションツールの拡充などの基本的なサービスと、接客レベルの向上に取り組むとともに、地域産品の発掘やそこでしか味わえない料理を提供するなど、地域の魅力を発信する「地域のショーウィンドウ化」に取り組んでいます。



地域産品応援フェア
(関越道 越後川口SA(下り線))



E-NEXCO野菜市場
(上信越道 横川SA(上り線))

東日本大震災からの復興への貢献

東日本大震災からの復興への貢献として、2016年3月に、いわき中央IC～広野IC間の約27kmと山元IC～岩沼IC間の約13.7kmの4車線化および広野IC～山元IC間の付加車線設置(約13.7km)が事業化され、2021年6月までに上記区間の4車線化および付加車線設置事業がすべて完了しました。

現在は、相馬IC～新地IC間の4車線化事業および浪江IC～南相馬IC間の付加車線設置事業を進めており、引き続き一日も早い完成に向け努めてまいります。

常磐道 阿武隈大橋付近の4車線化



工事前



工事後



事業活動を通じて、 環境保全・気候変動対策に取り組みます

■ 省エネルギー化と視認性に優れた 照明の採用

トンネル内の照明を従来の「高圧ナトリウムランプ」から、「LEDランプ」などに変更することで、視認性の向上を図るとともに省エネにも貢献しています。これまで303カ所のトンネルに設置し、2020年度は新たに17カ所のトンネルでLEDランプを設置しています。これまでに実施したLEDランプなどへの変更による使用電力量の削減は年間約3,800万kwh(CO₂削減年間約2.1万トン)と推計されます。

また、トンネル照明だけではなく道路の照明にもLEDを導入するなど、さらなる電力削減に向けた取組みも行っています。



高圧ナトリウムランプ



LEDランプ

■ 地球温暖化防止に寄与する樹林形成

高速道路敷地内では、2020年度までに約3,700haもの面積に植樹を行ってきました。これらの樹林によるCO₂の吸収・固定効果は年間約3.9万トンと推計されます。

当社では、これらの樹林を含むグリーンインフラを適正に管理していきます。



当初植栽状況



経年緑地管理状況



ISO14001登録証

■ ISO14001認証取得について(2021年3月25日登録)

SDGs達成に貢献するCSR経営の推進に向け、国際規格であるISO14001(環境マネジメントシステム)を本社として認証を取得し運用しています。また、現在の環境を取り巻く社会情勢をふまえ、新たに環境委員会を設置し、「環境行動指針」も併せて改訂(2021年1月29日)しました。

さまざまなパートナーシップを 推進します

■ 災害対応に向けての連携

災害への対応はハード面のみならずソフト面での備えも欠かせません。NEXCO東日本グループでは、大規模災害発生時に緊急交通路を確保し、被災地の救急救命活動や復旧復興活動などに貢献するため、自衛隊、消防庁、警察、DMAT並びに各インフラ事業者との合同訓練などを行い、関係機関との連携を図っています。



フードコートの防災拠点本部活用(合同訓練の様子)

■ オーバーブリッジ(跨高速道路橋)点検における技術支援

道路橋の維持管理に関する知識やノウハウを活かし、オーバーブリッジの点検業務や損傷診断結果を踏まえた補修計画立案、補修工事の受託のほか、橋梁点検見学会を通じ、技術者不足などの課題を抱える地方公共団体のインフラ維持管理をサポートしています。



橋梁点検作業車によるオーバーブリッジ点検



オーバーブリッジ点検(夜間)

「高福連携」



農業と福祉の連携である「農福連携」から着想を得た、高速道路と福祉が連携して幸福を上げていく「高福(幸福)連携」は、SA・PAの美化や植栽といった作業を協働し、障がいのある方の活躍の機会とすることで、高速道路を通じて地域社会の活性化に貢献することを目指す取り組みです。

ダイバーシティを推進する「高福連携」は、SDGsの目標10「人や国の不平等をなくそう」への貢献にもつながります。



SDGsの達成に貢献し、 新たな未来社会に向け 変革していく

NEXCO東日本 代表取締役社長
小島 徹

NEXCO東日本グループは、高速道路のプロ集団として、「安全・安心・快適・便利な高速道路サービスをお届けすること」を社会的使命としています。

昨今のコロナ禍、頻発・激甚化する自然災害、脱炭素社会化への潮流、デジタル技術の進展など、国内外の社会経済情勢が大きく変化するなかで、当社としても、私たちがもっている本質的な力と持続可能な未来を見据え、変化に対応していく必要があります。

本年4月には、こうした視点から中期経営計画(2021～2025年度)を策定し、「SDGsの達成に貢献し、新たな未来社会に向け変革していく期間」と定めたところです。

これからも、社会の中の会社という考えのもと、事業活動を通じて社会の発展に貢献してまいります。

<冒頭の写真について>

冒頭の見開きで使用した写真は、仙台東部道路 仙台若林JCT～仙台東IC間の盛土部に設置した津波避難階段の写真です。東日本大震災発生後、津波発生時に避難する高台などがない沿岸部周辺において、地元行政機関等と連携したうえ、高速道路の盛土部のり面を津波避難階段として提供しており、地域の防災訓練などにも協力しています。

震災から10年を節目に、地域とのつながりを大切にし、震災の教訓を生かしている場所として、この写真を選定しました。
(2021年6月撮影)

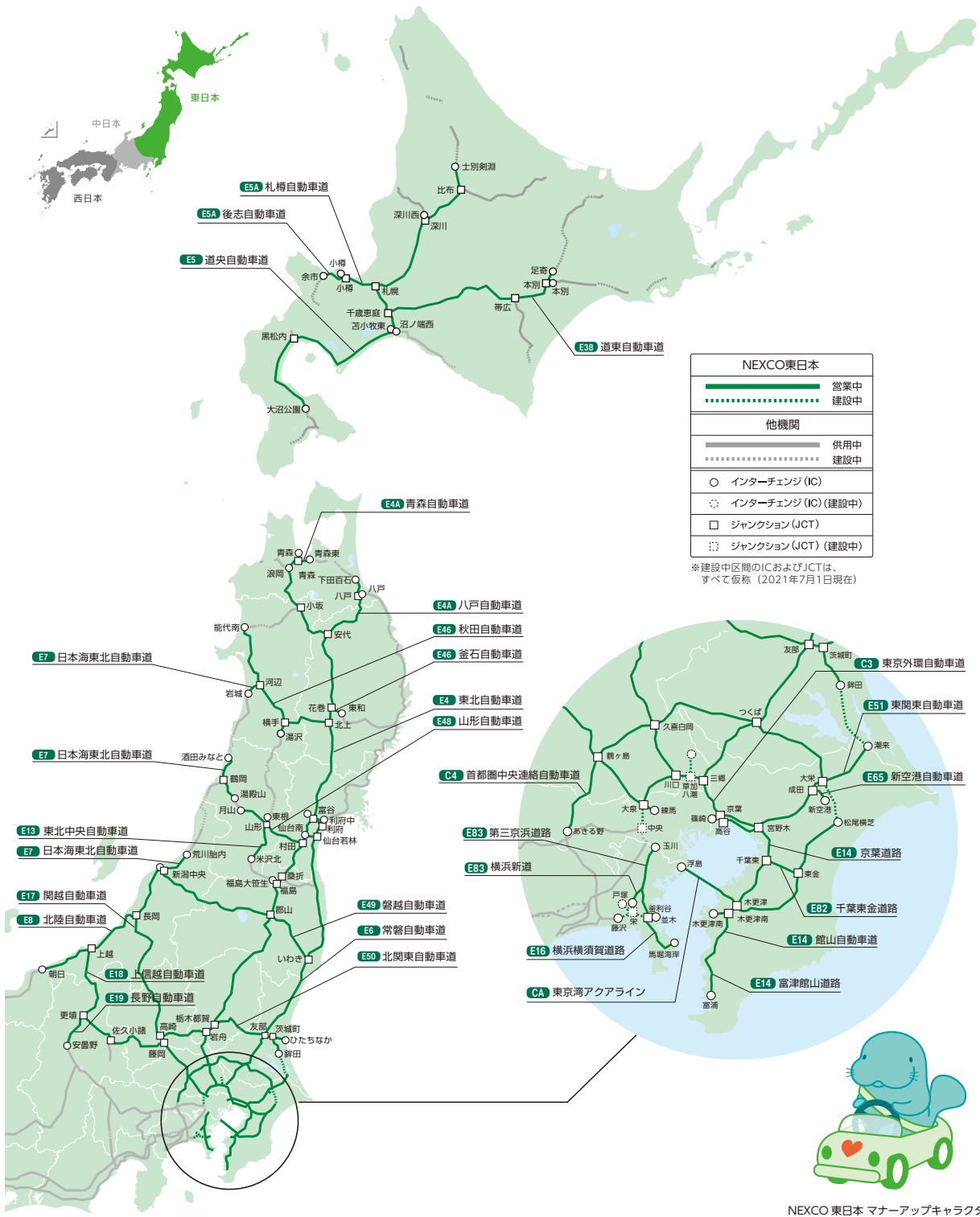


NEXCO東日本に関する詳細な情報は、ホームページにて公開しています。

コーポレートサイト <https://www.e-nexco.co.jp/>



NEXCO東日本の事業エリア



NEXCO東日本レポート 2021 CSR BOOK

発行: 東日本高速道路株式会社

〒100-8979

東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビルディング(総合受付14階)

NEXCO東日本お客さまセンター 0570-024-024または03-5308-2424

<https://www.e-nexco.co.jp/>



本報告書は、環境に配慮し、用紙にFSC®認証紙を、印刷インキに揮発性有機化合物を含まないNON-VOCインキを使用し、印刷はアルカリ性現像液やイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な「水なし印刷」で行っています。また、読みやすさに配慮された「ユニバーサルデザインフォント」を採用しています。

2021年7月 発行